

担当課・室	会場	ご意見の要旨	市長の回答	対応状況
企画振興課	邑久	・円張(邑久町豊原)において、若者の流出などによって、地域の運営や役員に支障が出ている。地域がだんだん疲弊してきていると感じている。若者が瀬戸内市に住んで地域を活性化してもらえるような施策をしてほしい。特にコミュニティを中心とした地域づくりをするのがよいのではないか。	・若い世代が地域とどうつながりをつくっていかれるかによって、将来ふるさとに帰ってきたいなと思ってもらえるかが変わる。ふるさとを捨てる教育とふるさとを生かす教育をはき違えないように、学校教育の中で工夫しながら地域の方にもかかわっていただく必要がある。また、その受け皿になるように、コミュニティが力をつけることが大切である。現在「これからの地域を考える会」をいろんな地域で開かせていただいているが、行政が何をやるかということだけでなく、自分たちが何ができるかを考えられる公共性の高い方々にいかにかくさん住んでもらえるかを考える必要がある。	・市内各地区で抱える課題はさまざまです。市では、若者の移住・定住の取り組みを進めていますが、全国的に人口減少、高齢化が進む中で、地域課題の解決につながるような十分な効果は得られていません。地域ごとに異なる状況や課題に対応していくためには、地域を最も良く知る市民の皆さんが主役となってまちづくりを行うことが、きめ細かい課題解決につながると考えます。若者が住みやすく活躍できる地域にするためにも、まずはそれぞれの地域の中で課題を共有し、その解決に向けた機運を高める必要があると考えています。 ・「これからの地域を考える会」では、行政委員の皆さんなどにご案内し、地域課題の共有や課題解決策の検討などをワークショップ形式で行いました。引き続き本年度の市の事業として、コミュニティ協議会など、ある程度まとまりのある地域組織が行うワークショップや学習会、アンケートに対しての支援も行っていますので、活用をご検討ください。
観光課	邑久	・外国人観光客やウオーキングに来られる人たちが、分かりやすいサインや標識を作るべきではないか。市の境が分かるサインをつくってみてはどうか。また、「一本松IC」のICサインを「牛窓・一本松IC」に、「邑久IC」を「邑久・夢二IC」というサインへの変更を県に要望してみてもどうか。セットちゃんを生かした市内で統一のサインをつくってみてはどうか。	・市内のサインを統一することは、重要であると考えている。デザインや、それをどのように決めていくかのプロセスをきちんと決めていく必要がある。具体的なコンセプトを決めて、瀬戸内市のプロモーションの一環としてサインをどう位置づけるかという、全体の中での位置づけを考えていく必要がある。観光の一つの取り組みとして今後検討していきたいと思う。	・市内のサインを統一し、観光やその他の目的で本市にお越しになられた皆さんに分かりやすくご案内できることは、とても重要なことだと認識しています。市内の統一的なサインについて、今後検討していきたいと考えています。
建設課	邑久	・玉津に太陽光発電のビジターセンターをつくって、太陽光発電のPRや錦海湾の歴史についての展示をしてはどうか。若宮八幡宮の絵馬など展示したり、地元食材を使ったレストランを設置したりしてはどうか。	・太陽光発電のビジターセンターの建設については、当初から内部でも検討課題になっている。費用や維持管理などが財政的にまかなえるか、場所の選定も含めて研究していく必要がある。	・錦海塩田跡地の太陽光発電は民間事業者が行っているため、ビジターセンターの建設には、事業者の協力が欠かせません。建設費用も必要となりますので、事業者と相談しながら、設置の可能性を検討します。
社会教育課	邑久	・円張や下山田、尻海などにある「しゃぎり」(祭りばやし)が消えかかろうとしている。しゃぎりを市の無形文化財にしてほしい。できることなら五線譜に書き起こして、子どもたちが将来にわたってその曲を引けるようにしてほしい。また、「長瀬薫」という縄文土器や弥生土器を集めている人の作品を展示する施設がほしい。	・教育委員会へ伝えて、現状を確認していきたい。	・少子高齢化など、近年の急激な社会構造の変化に伴い、文化財に指定しているだんじりや運行の際のしゃぎりや運行、囃(はや)されることができない地域があるのが現状です。ご意見がありました「しゃぎり」のみを市指定無形文化財に指定することは難しいと考えています。現在、旧邑久町の「しゃぎり」については、五線譜に書き起こして「邑久町のだんじりとしゃぎり」の冊子としてまとめています。その冊子は、市民図書館へ蔵書されていますので、ご確認ください。 ・郷土史家で旧邑久考古館長であった「長瀬薫」氏が発見した門田貝塚の剥ぎ取りパネルも市民図書館へ常設展示しています。以前、企画展として長瀬氏の顕彰と資料の展示をしていましたので、今後も機会を持ち、資料の展示をしていきたいと考えています。